

## 【単年度事業評価様式】

**鶴見区地域子育て支援拠点事業**  
**令和5年度重点目標評価結果・令和6年度重点目標**

事業実施期間	令和5年4月1日～令和6年3月31日(1年度目／5か年度)
事業の実施者	社会福祉法人青い鳥
	鶴見区子ども家庭支援課
事業目的	<p>市民が安心して子どもを生み育て、子育てに喜びを感じることができる社会環境を形成し、子育てを地域全体で支援する地域力の創出に寄与することを目的とします。</p> <p>【事業・施設運営の基本理念】</p> <ol style="list-style-type: none"> <li>1 鶴見区における、地域による子育て支援の拠点施設としての運営</li> <li>2 子どもの視点に立ち、すべての就学前児童及びその養育者、並びに子育てに関する支援活動を行う者に開かれた運営</li> <li>3 子どもと家庭を支援する各種の行政等機関・地域等との連携を図る運営</li> <li>4 利用者の意見、子育てをめぐる社会情勢、市民ニーズの変化に柔軟に対応できる運営</li> <li>5 子ども及びその養育者の育ちを支援するとともに、養育者自身が事業の担い手として関わることができる視点に立った運営</li> <li>6 地域の人と人とのつながりを広げ、地域ぐるみの子育て支援を目指す運営</li> </ol>
事業の内容	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 乳幼児の遊びと育ちの場及びその養育者の交流の場の提供(親子の居場所事業)</li> <li>2 子育てに関する相談及び関係機関との連携に関すること(子育て相談事業)</li> <li>3 子育てに関する情報の収集及び提供に関すること(情報収集・提供事業)</li> <li>4 子育てに関する支援活動を行う者同士の連携に関すること(支援者ネットワーク事業)</li> <li>5 子育てに関する支援活動を行う者の育成、支援に関すること(人材育成、活動支援事業)</li> <li>6 地域の住民同士で子どもを預け、預かる支え合いの促進に関すること(横浜子育てサポートシステム区支部事務局運営事業)</li> <li>7 子育て家庭のニーズに応じた施設・事業等の利用の支援に関すること(利用者支援事業)</li> </ol>
事業の評価実施方法及び評価結果の公表方法	<ol style="list-style-type: none"> <li>1 今年度の取組状況や利用者アンケート結果等をもとに、協働契約書中の役割分担表の項目に沿って設定した、今年度の達成目標のうち、当該年度に特に重点的に取り組む達成目標である「重点目標」について、以下の通り、相互振り返りを踏まえた取組成果と課題を公表します。</li> <li>2 今年度の取組状況や成果、課題を踏まえ、次年度の重点目標を公表します。</li> </ol>

## 令和5年度重点目標の評価

令和5年度重点目標	<p>【重点目標1】          妊娠期から地域とのつながりを持ち、養育者が適切な資源を活用できるような仕組みを作る。</p> <p>【重点目標2】          地域に根差した活動を視野に入れ、鶴見区子育て支援ネットワークのあり方を検討する。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○子育てサポートシステム新事業に関して、区と協働して準備、情報提供、円滑な実施を行う。</li> <li>○区と連携した妊娠期へのアプローチの強化(子育てマイカレンダーにつどいの広場掲載、妊娠8か月のおたよりに地域情報のチラシを同封などを検討)</li> <li>○親になる前準備教室プレママプレパパの会を土曜日を中心に実施し、適切な資源の紹介に努める。</li> <li>○拠点利用のない妊婦や養育者へ向けての情報提供を強化する。(情報カード作成、地域別カレンダーの周知、SNSを利用した妊婦向けの情報提供)</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>○あつまれえがお、子育て個育ちフォーラムなどの多分野のネットワークに参加し、これらの地域資源の横のつながり作りを検討する。</li> <li>○地区担当保健師との連携を深め、地域に根差したネットワーク作りを検討する。</li> </ul>

取組の成果	<p>【重点目標1】【振り返り】</p> <p>○子育てサポートシステム新事業に関して、周知用チラシを作成し、区とともに赤ちゃん会や地域ケアプラザ等での配布・掲示を依頼した。チラシ配布時は対面で丁寧な情報提供を行った。こども青少年局のデジタルサイネージ等への掲載協力も得られた。それらの結果から利用登録が増えた。</p> <p>○区とともに妊娠期の方向けに子育て情報の拠点であることを周知した。また、妊娠期からの拠点利用を案内し、最新の情報を配布するなど、出産後も利用しやすいようアプローチを強化した。結果、出産後の相談にも繋がった。</p> <p>○親になる前準備教室「プレママプレパパの会」を土曜日を中心に実施した。開催場所や開催時期、内容等について検討した。また、必要に応じ個別の沐浴指導も行った。</p> <p>○拠点利用のない妊婦や養育者へ向けて、ホームページの改修や情報カード作成、地域別カレンダーの周知、SNSを利用した妊婦向けの情報提供等の強化を図った。</p> <p>【重点目標2】【振り返り】</p> <p>○地域子育てイベント「あつまれえがお」や子育て個育ちフォーラム、トレッサ子育て相談会などの様々なネットワークに参加し、顔の見える関係づくりを強化し、地域資源の情報収集提供に努めた。</p> <p>○地域に根差したネットワーク作りのため、新たな地域の子育て会議等に地区担当保健師とともに参加した。地域の子育て状況を把握し、支援者との連携を深めた。また、ふらっとる一むネットワーク会議(寺尾・馬場地区)を開催することができた。</p>
取組の課題	<p>【重点目標1】</p> <p>○親になる前準備教室「プレママプレパパの会」のケアプラザでの開催については実施時期の見直しの必要がある。区の両親教室の申し込みの多い上半期での実施を検討していく。</p> <p>【重点目標2】</p> <p>○地域の支援者との顔の見える関係づくりを区内全域に広げていく必要がある。引き続き地区担当保健師の協力を得て、諸事業において地域の支援者との連携を図っていく。</p>

## 次年度重点目標

令和6年度 重点目標	<p>【重点目標1】</p> <p>○多様な養育者が妊娠期から地域とつながりを持ち、安心して子育てができるよう、切れ目ない支援を強化していく。</p> <p>【重点目標2】</p> <p>○ネットワークを活用して顔の見える関係づくりを深め、事業周知や情報収集・提供を進め、関係機関と相互の事業協力を強化していく。</p>
取組内容	<p>【重点目標1】</p> <p>○妊娠期からの不安に寄り添い相談しやすい環境を整えていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・プレママプレパパ向けに「おしゃべり会」等の交流会を検討する。</li> </ul> <p>○「プレママプレパパの会」の見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・参加者が行きやすい会場で参加でき、地域の子育て資源を伝えやすくなるよう、各地域ケアプラザでの開催について検討していく。</li> <li>・当事者同士や先輩ママ、パパとの交流タイムを設け、出産前後の不安を共有できるよう内容を変更する。</li> </ul> <p>【重点目標2】</p> <p>○顔の見える関係づくりを深めるため、スタッフを地区担当制にし、地区ごとに丁寧な対応をしていく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・各地域の現状を知り、必要な情報を収集し養育者に届ける。</li> </ul> <p>○ふらっとる一むネットワーク会議の地区別連絡会の開催について検討していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・ふらっとる一むアンケートを基に課題のある会場を訪問し、困りごとの共有に努める。</li> <li>・昨年寺尾・馬場地区に続き、今年度は駒岡・末吉地区での開催も検討する。</li> </ul> <p>○ネットワークを活用したアウトリーチ事業について見直しを行う。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・地域ケアプラザや保育園、地域の子育てに支援に関わる施設、子育てサークル等にも声をかけ、外遊びを意識した「公園へ行ってみよう」や、子育てサポートシステムの入会説明会と遊びの広場のコラボ企画「おでかけわっくん」を開催する。</li> <li>・外遊びを意識した養育者向け「外遊び講座(仮)」の開催について検討していく。</li> </ul> <p>○ネットワークを活用して、横浜子育てサポートシステム新システムの事業説明やチラシの配架・掲示等を進め、強化していく。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・新事業導入に伴う活動依頼の増加に対応できるよう、提供会員・両方会員の増員に努める。</li> <li>・子育てサポートシステムの会員継続のため、「横浜子育て支援拠点サイト」導入で会員が混乱しないよう拠点内外での説明会等の工夫をし、必要に応じて個別サポートもしていく。</li> </ul>

### 3 協働のプロセスの評価

#### ①事業計画段階

	区	拠点	相互評価
1 自分たちが達成すべき大きな目的や理念についてよく話し合うことができましたか。	B	B	B
2 お互いの立場や組織の違いを話し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
3 お互いの組織内部の取り決めについて、説明し合っよく理解することができましたか。	B	B	B
4 子育て家庭や子育て支援に関わる市民のニーズを把握して共有するとともに、この事業の目標と実施方法を話し合っ決めることができましたか。	B	B	B
5 目指す拠点の姿に近づくためにそれぞれが何をできるかを考え、話し合っ役割分担を決めることができましたか。	C	B	B
6 この事業の実施目的・目標や事業計画について、ホームページや通信等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	A

#### ②事業実施段階

	区	拠点	相互評価
1 率直な意見交換のもとに、お互い対等な立場で事業をすすめることができましたか。	B	B	B
2 お互いの強みや得意分野を、どう生かし合えるかを考え、提案しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
3 相手に任せっきりにせず、お互いが役割を自覚して積極的に取り組むことができましたか。	A	A	A
4 事業の進捗に応じて、目標、ニーズ、対象、実施方法などをふりかえり、修正しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
5 必要に応じ、関連する他の部署や団体などを巻き込みながら事業をすすめることができましたか。	B	B	B
6 事業終了後の見直しについて、話しながら取り組むことができましたか。	B	B	B
7 事業の進捗状況を、ホームページや会報等を使って市民に発信することができましたか。	B	A	B

#### ③事業の振り返り段階

	区	拠点	相互評価
1 協働することで、単独でおこなうのに比べてどのような効果が得られたか、話し合っ共有することができましたか。	B	B	B
2 子育て家庭や子育て支援に関わる市民が満足を得られたかどうかについて、アンケート調査や話し合いによって確認することができましたか。	B	B	B
3 これまでの取組経過を振り返って、お互いの考えに相違点がなかったかについて話し合い、確認する事ができましたか。	B	C	B

取組経過について振り返り、協働に必要な取組が出来ていたかを評価します。

評価基準

A よくできた B できた C あまりできなかった D まったくできなかった